

### 投稿 「三島ふれあいユニオン」

No.176の代表質問のレイアウトはシンプルで読みやすい。縦書きと横書きが混在して、まとまりがなく集中できない(ちなみに2016年の広報は左綴りで横書きに統一されて読みやすい)。

\*発行部数は44000、43700、43400等とまちまち。この数字は何を根拠に決めているのだろうか？

\*1年間の用紙と印刷代はいくらかかりますか？

\*全世帯に配布することになっていると思いますが、町内会や自治会に入っていない世帯へはどのような手だてで届くようになっているのか？以前は郵送してくれていたようですが、いかがでしょうか？

\*成人式の取り上げ方についてですが、振袖姿の写真が表紙を含めて4ページも埋め尽くされている。振袖を着て参加したいという個人の気持ちが見ながら、気分は悶々としていた。そんな中、土肥金山の工場賃上げストライキや沼津の東京絹糸紡女子工場のストライキが報じられた。その後、福島義一は菊池の地、中国の青島を侵略し、軍事的、経済的に中国侵略の足場を固めていた。戦争景気で資本家は儲け、しかし、農民や庶民は苦しい生活が強いられ、また、1917年のロシア革命の波が押し寄せた。シベリア出兵、軍事調達による米の買い付けで米価高騰が起り、富山では米騒動が勃発し各地に波及した。

一方、1910年「幸徳事件」が発生し、官憲の弾圧が暗い世相の到来を予兆していた。しかし、庶民の民主主義への願望は知識人や社会小説家の登場で大きく高まっていた。菊池家でのんびり過していた福島義一の周辺も、次第に不況の波が押し寄せ、発行していた新聞は廃刊。狩野川沿いには粗末なトラックに不浮浪者や失業者が集落ができていた。義一はそれらを横目

### 投稿 三島駅前100Mのビル建設計画がある

三島駅南に100Mのビル建設計画があると聞いたので、市の説明会に行った。会場近くでチラシを撒く女性たちがいた。チラシをもらって読んでみると、年配の男性3人がチラシ配布の女性2人をとり囲んでこんなやり取りをしていた。

「なにを反対しているのか言ってみる」「市長は選挙に勝ったんだから開発を強行するのは当たり前だ」「いや、反市長の票が四千人も上回ったんだから、市民の意見を聞くのが当たり前」「四千票は開発反対に限ったこと言えないぞ」「そんなこと言ったら、市長の票の中だけで開発には反対の票もあるでしょ」

すると、その脇を駅方向から来たスーツ姿の若い集団が通り抜けて入場して行った。一人、二人と入場する一般市民とは雰囲気も服装も全く異なる若い集団が、説明会という必ず三島駅が繰り出し駅に帰っていく。そこで思い出したことがある。大規模公共事業や民間開発などで、住民の強硬な反対にあった場合など市民対策を金で請け負う

の意見を聞くのが当たり前」「プロ集団があるのだぞうだ。近隣のトラブルを請け負って処理したり、公共事業で公に代わって市民説明会を企画、運営。役人の代弁までもするらしい。ところで先週の東京新聞に三島市の補正予算が乗っていた。それによると駅前開発予算として1909万円が計上。何にも進んでいないのに何にか全く分らない。上記のような市民対策に使われているのだろうか？説明が必要だ。」

(匿名)

### 3・11を忘れない映画上映会 第3回のお知らせ

今年も3・11が巡ってきました。国はまるで3・11など無かったかのように避難者の帰還を促し、汚染物質の拡散策を進めています。私たちは3・11を忘れない。起きてしまった3・11から学びなくてはなりません。

映画「BEYOND THE WAVES」は、ベルギーの監督が山本太郎を追ったドキュメンタリー映画。これは作り話でなく、東電福島原発事故も、国会答



### 経皮毒から子供たちを守ろう(2)

経皮毒は嘘？つち上げ？確かに不安を煽って販売している人もいます。身の回りにはある化学物質は膨大で、感受性やメカニズム、安全性については未解明な部分の方が多い。しかし、ウズ実験等でも化学物質の危険性は証明されているし、ある日突然、アレルギーを発症したり、化学物質過敏症になること、経皮毒が知られて痛手を受けるのは、化学メーカーや洗剤・化粧品会社、マスコミやTV等の大手スポンサーだから、なかなか本当のことを伝えられないのも事実。(小児科医、真言定夫博士)

皮膚表面には本来皮脂膜や常在菌等によってバリア(防御)が形成され、異物の侵入を制限しているが、合成界面活性剤の入ったもので洗うと常在菌が洗い流されて皮膚免疫力を下げただけでなく、その強力な界面活性力(自己

### 県東部労農運動家列伝(2)

「旗と花と歌」と

著者田中延雄より

福島義一は戦前・戦後を通じて、静岡県東部における農民運動史において忘れられない存在だ。彼は1892年5月6日、埼玉県大里郡寄居町の養蚕農家の長男として生まれた。1907年、東京に出て職を転々としながら勉学に励んだ。

1911年、正則英語学院に学び、銀座の貿易会社に就職した。そこでも働きながら日本大学に通った。ところが身体を壊し、神田の新聞店で一緒に働いていた旧友の菊池敏治と偶然出会った。菊池の好意で沼津の彼の自宅で療養することになった。福島義一、28歳の時であっ

### 本棚便り(20)

問宮 緑

『ペドロ・パラモ』

フアン・ルルフオ作

杉山景訳 岩波文庫

ルルフオはラテンアメリカ文学の大家だが、生前に出版された小説はこの2冊だけ(他に『黄金の軍鶏』という映画原案もある)。

しかしその完成度の高さが、短編作品の一つ一つが代表作と見なされている。干上がった大地と乾いた風、そこに生き、死に、時に殺し合う人々を、語り部のように描写する。

『ペドロ・パラモ』の「おれ」は生まれてから一度も会ったことのない父親を訪ねてコマラという廃村にやってくる。だがすでに父親はだど知らさる。村に



天下の荒れた平原を歩いて行く農民たちの話。彼らが政府から分配された土地は、草木も生えない不毛の地で、作物など育つはずもない。彼らは「おれたちのもらった土地」が平原のどこかにあるはずだと信じて旅を続けるが、一人また一人と離れてゆく。馬も武器も政府に取り上げられた彼らは、荒野をさまようより外にならざるを得ない。生々しくもどこか寓話的な感じがする作品だが、実際に一九二〇年代後半のメキシコで、農民は不毛の土地を「農地」として政府から分配され困窮したとい

現実とフィクションの間で、ドキュメンタリーではなく小説を書き続けた作家の思いとはどんなものだったのだろう。「美的なもの」に収まりきれない文学と、それを生み出す人間の精神について、深く考えさせてくれる本だと思ふ。

本棚便りは執筆者の都合により今回で終了させていただきます。

3年余りわたり執筆頂いた問宮 緑さんにお礼申し上げます。

(編集者)

**ミナラル酸酢ドリンク教室**

御予約にて開催いたします

費用 3500円(材料費を含む)

連絡先 駿東郡清水町徳倉 **あんさ**

電話: 070-6410-7538(このの)

山本太郎氏のドキュメンタリー映画

『BEYOND THE WAVES』

伊豆の国上映会 & 森住卓福島写真展

**2019年3月10日(日)**

会場: 葦山時代劇場 映像ホール

時間: ①開場10:00 / 開演10:30 ②開場13:30 / 開演14:00

前売券: 一般1,000円 / 障がい者・介護者 500円 / 中学生以下 無料

:各120名(チケット購入の際①②をお選びください)

主催: 3.11を忘れない実行委員会

問合せ: 電話 080-3061-1561(原田) メール yoyaku@shimin-hiroba.org

ひろばパソコン教室のご案内

スマホ買ったけど使いこなせない(＞＜)

第2・4水曜日 午後7時~8時半

市民ひろばにて

**1回 1000円**

【個別指導対応】

iPad、スマホの使い方、ワード、エクセル、デジカメ、画像処理、3DCADの使い方等

連絡先: 080-3061-1561(原田)

労働相談受け付けます!

**三島ふれあいユニオン**

首切り解雇、残業代未払い、職場でのパワハラ・セクハラ

ひとりで悩まないで相談してください

三島ふれあいユニオンは全力であなたをサポートします

電話: 090-4216-8417

Eメール: hrwsys@yahoo.co.jp